



海のいきもの、いっぱい



海のおばけオーリー

マリー・ホール・エッツ 文・絵 石井 桃子 訳 岩波書店 Eーエ

あるみなとのそばの海^{うみ}べで、アザラシのあかちゃんがうまれました。ところが、おかあさんがおきにおさかなをさがしにしているあいだに、ひとりの水兵^{すいへい}がやってきて、あかちゃんをつれていってしまいます。動物屋^{どうぶつや}にうられたあかちゃんアザラシは、オーリー^なという名まえをつけてもらいます。

くじらのあかちゃんおおきくなあれ

神沢 利子 文 あべ 弘士 絵 福音館書店 Eーア

まんまるおつきさまのよる、ざとうくじらのあかちゃんがうまれました。おつきさまは、うれしそうにうたいながら、あかちゃんをみまもります。あかちゃんくじらは、みんなのまねをしてジャンプしたり、いきをはいたり、もぐったりします。およげるようになったあかちゃんは、おつきさまにジャンプをみてもらいます。

ポッパーさんとペンギン・ファミリー

R & F. アトウォーター 著 上田 一生 訳 文溪堂

933ーア

ペンキ屋^やのポッパーさんは、スティルウォーターという町^{まち}から出たことはありませんでしたが、本^{ほん}や映画^{えいが}を見て、いつも北極^{ほっきょく}や南極^{なんきょく}のことに想像^{そうぞう}をめぐらせていました。ある日、ポッパーさんは、南極^{なんきょく}を探検^{たんけん}したドレイク提督^{ていとく}に手紙^{てがみ}を送^{おく}りました。すると、南極^{なんきょく}から荷物^{にもつ}がとどきます。その箱^{はこ}には、なんと、ペンギンがはいていました。

ダンゴウオの海

鍵井 靖章 写真・文 フレーベル館 Eーカ

ひがしにほんだいいしんさい つなみ せいかつようひん かにいてい
東日本大震災の津波のあと、生活用品が海底にしずみ
さかな うみ
魚たちがいない海で、1匹きのダンゴウオにであいました。
た。ダンゴウオは、とても小さいさかなで、おなかの吸盤
きゅうばん
で岩などにくっついてくらしています。ダンゴウオが産卵
さんらん
する初夏になり観察を続けていると、赤ちゃんダンゴウオ
あか
がうまれました。海の中では、ダンゴウオのほかにも新し
あた
い命が次々に誕生します。
いのち つぎつぎ たんじょう

あたごの浦

讃岐のおはなし

脇 和子・脇 明子 再話 大道 あや 画 福音館書店 Eーダ

あるお月さんのきれいな晩のこと、たこが砂浜にあがって
つき ばん すなはま
きて畑のなすびを食べだしました。すると、海の中にいた鯛
はたけ た なか たい
も浜へあがってきて、魚どもを集めて演芸会をしようと言
はま さかな あつ えんげいかい い
いました。そこで、たこはおおよろこびで、波打ちぎわへ行く
なみう い
と、「おーい、演芸会するぞー」と、呼びかけました。
えんげいかい よ

うみのおまつり どどんとせ

さとう わきこ さく・え 福音館書店 Eーサ

ばばばあちゃんがうみのみえるおかにいると、こ
とりがてがみをもってきました。そのてがみには、
かがんにおおくじらがねていてみんなこまっ
ている、とかいてありました。ばばばあちゃんはおく
じらをおこそうと、とつときのげんきのもとをつみこ
んでうみにむかいます。

クジラがクジラになったわけ

テッド・ヒューズ 作 河野 一郎 訳 岩波書店 933ーヒ

ある日、神さまは畑にふしぎなものがあるのに気づきました。黒
ひ かみ はたけ き くろ
くてテカテカ光るマメのようなものです。その黒いものはクジラ草
ひか くろ そう
といい、ずんずんずんずん大きくなって道をふさぎ、神さまの家を
おお みち かみ いえ
つぶしてしまいます。こまった神さまとほかの動物たちは、このク
かみ どうぶつ
ジラ草を海の中にほうりこみました。
そう うみ なか